

# くまざさ

第42号

発行

釧路湖陵同窓会

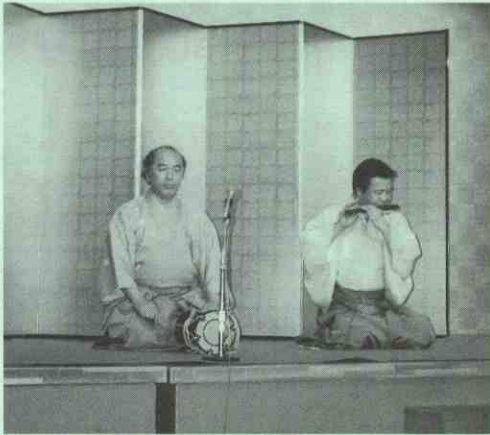
くまざさ編集委員会

発行日

平成15年3月1日

印刷所

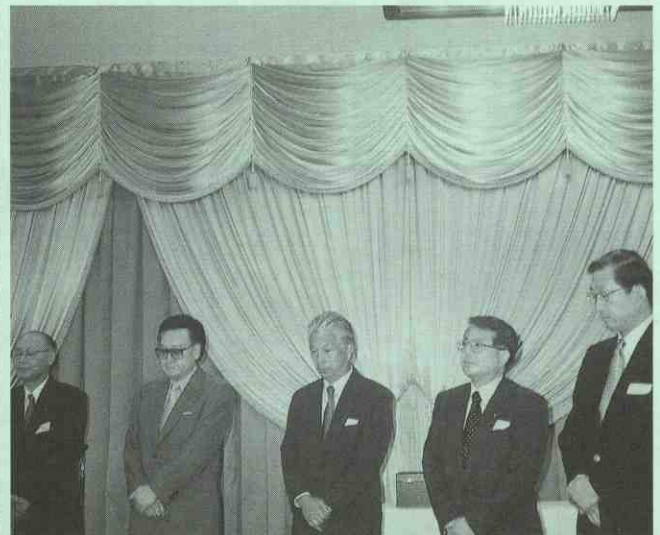
藤田印刷(株)



## 目次

14年度湖陵同窓会総会	一頁
大成功の90周年記念	二・三頁
同窓会館の建設推移	四・五頁
同期生旅行(30・31期)	六頁
活躍する卒業生	七頁
同期生交友・編集後記	八頁

平成14年度釧路湖陵同窓会総会 14年8月11日キャッスルホテル



# 失敗を生かして大成功だ

## 創立90周年、定時制80周年事業

### 後援会が記念協賛を主催

湖陵創立90周年を間近かに控え、学校を中心として、やるのかやらないのか？やるとしてどのグループが主催になるのか？資金の調達を考えれば二の足を踏む。

記念事業の規模は？時期は？乃公出ずんば、と火中に飛び込んだ後援会は同窓会館寄付の失敗を前車の轍と見て、慎重に、しかし大胆に企画、行動し、天も味方する秋晴れの下、大成功裡に完了したのである。平成十二年六月に事務局を設け、島本幸一後援会長が準備委員長、翌年に全日制の前PTA会長の中村圭佐氏が引継ぎ、協賛会長となり葭本正美、佐藤文昭、伊藤文雄、鈴木豊治らが助けたのであった。

### 式典

### 至れりを受入れ態勢

秋晴れ。

平成14年9月21日。土曜日の午

後1時の釧路市民文化会館の入口。湖陵高の生徒、教員が緊張し



た面持ちで来賓を待ち受けていた。氏名の印刷された記念誌の袋をもらい式場へ入る。

スケジュールや座席表が明細にかかっている。完璧の感である。この日は、正確に言えば89年目

と一年前倒しの創立90周年、定時制80周年なのである。

なぜにこうなったかは、前創立80周年が現校舎改築落成記念式典と合わせ平成3年9月29日に二年早く挙行したためであろう。

いま時期の悪いことは、すべての人々が感ずることであった。世の中の不況、釧路市内の沈滞さらに同窓会館建設費未払いと、「私個人としては90周年は不要かと思っていました」と同窓会長が言うほど。

当然に記念事業協賛会の受け皿が同窓会かPTAか後援会か？平成十二年、ここにクローズアップしたのが後援会であった。PTAが三千円に対し、二万二千元の年会費を集め、約千名を抱える

### 講演

### 「努力とは夢をつなぐこと 失明からの再出発」

### に感動

さてロビーは同窓生で賑わい、全生徒は肅々と会場の上部に座っている。

セレモニが順次規則正しく進む。式場は暖かい同一の目的に向かってエスカレーターに乗っている感じで全員が静かに見守る。休憩があり、一息ついたあと。

記念講演。女生徒の肩に手をのせて導かれ

同窓生を含む財界人グループは強力なのだ。記念誌(百六十頁)二千部の編集には教職員が熱心に一年前からスタートした。

総予算を四百五十万円と定め、

壇上に着いた竹下義樹弁護士51歳。「努力とは夢をつなぐこと失明からの再出発」と題す。

小学生時代から、勉強が嫌いだった。相撲大好き。頭突きがために14歳で失明。中学卒業後の進路は盲学校での按摩マッサージを学ぶことしかなかった。

貧しいなか龍谷大学法学部へ有名校でもなく司法試験など誰



募金一口三千円(記念誌一冊千円)局の振替用紙で払込料金加入者負担で送金が予算以上入金金の輝かしい結果となったのだ。





も目指さない。だから京大など他校の仲間に入り、多くの人の助けにより、点字の六法全書を作ってもらい、在学中から司法試験を目指して挑戦した。日本国の試験で最難関と言われる。まして盲人の受験は、その機会さえなく、国の窓口につけあう努力は筆舌に尽くし難し。友の、人々の助け、仲間があればこそ、挫ける心を励まし直し、九回目に合格した。

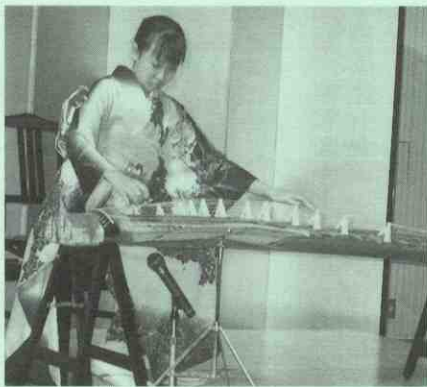
妻帯し、家族を養い乍らの勉強はマッサージのアルバイトをしても貧乏には悲鳴をあげる。

恩師に金の援助を頼みに訪れ忠告を受け、心の糧、そして援助を受け、ようやく弁護士になった。いま役職に、病院内の不正と闘う職務に、生き甲斐を持ちつつ岩山登りなど、多くの仲間を持って多忙の日々を送っている。

時、あたかも在学3年生には、卒業で進学か就職か、いずれにせよ人生の岐路にある。

落ちこぼれそうな気持ち、挫けそうな時。己よりもハンデを背負った竹下先生の人生経路、その力強い仲間意識、我もやるぞ!! そうした気持ちにさせる講演だった。

まだ頑張ればヤレル。私もヤレル。全ての生徒に勇気を持たせた有



### 祝賀

意義な講演だった。企画、招聘した葎本正美PTA会長の思いは全員に通じた。アトラクションは生徒の合唱。若々しい歌声に、式典につきも

「寄付が十分に間に合いました」  
同窓会館の建設実行委員長として金の苦勞をしてきただけに、その喜びははかり知れない。東京からわざわざ元定時制教諭として出席の実兄鈴木英雄先生を探すより先に報告にきた。わかるわかる、その安心感と感激ぶりが。  
バスをチャーターしてあった



の挨拶、感謝状贈呈など、そして感銘深い講演を思い返し、「素晴らしい記念式典だった」と反芻する、満足したのである。

が、祝賀会場へ一人一人ハイヤー(千百十円だった)に乗せて送り出してくれた。佐久間令次先輩ともども感謝したことであり、成功の嬉しさをかみしめた瞬間なのだ。祝賀会は二百名余の同窓会そのもの。式典を厳肅に、成功裡に済ませた安堵感が満々である。

島本幸一司会も中村圭佐協賛会長挨拶も気楽に和気あいあい。アトラクションは芸大3年在学中の橋本みぎわ52期生が琴を演奏。みんながかしこまって拝聴した。  
(奥田達也)



# 毛綱氏のノアの箱舟 「かけるナ」と愛の声

## 早くから在礼の母校愛 先輩の敷地寄付で燃える

後輩 どうもご無沙汰しまして、しばらく振りについて、早速に文句を言うよう申し訳ないんですが、同窓会館の建設寄附で聞かせて下さい。

先輩 わかっているヨ。キミの言いたいことネ。ようやく終わった。同窓生同士だ、ザックパランに話

し合おう。私も忌憚なくしゃべりたいよ。みんなが遠慮し、避けてきたからね。

後輩 なんて、あんな変な一億五千万円もする建物を作らなければならなかったんですか？

先輩 あれでも当初は二億数千円かかると思われたんだ。昭和63年

### 当初の建坪二百設計変更で半分に

でもそれは早い方で、札幌南高(旧一中)が百周年記念事業として平成7年、湖陵が8年、苦東が9年着工となっている。

後輩 何故に、それ程に必要なんですか？

先輩 道内の古参高校では会館やそれに類したものを持っている。それよりも湖陵は、在札の釧中同窓会が早くから母校愛に燃えていた。

大正2年開校までも道庁にいじめられた。そんなこともあり大正末期、道庁に勤める釧中卒の職員が釧中会を作り、北大生も加えて頻繁に会を開き燃え上がっていつ

頃ネ。釧路市内にもある毛綱毅曠氏の美術作品の一つだ。彼の心象世界を探った新しい造形空間を創造した美術品なんだヨ。

後輩 道内だけみても同窓会館を持つ高校は少ないでしょう？

先輩 昭和56年1月の第二回同窓会館建設小委員会が翌月に帯広三条高校の同窓会館を視察し本誌5号トップに「湖陵同窓会館青写真できる」と模型写真も載せている。

たんだ。

たまたま昭和50年に釧中15期の道新社長上関敏夫氏が富士見の旧校舎地続きの土地三百坪を寄附してくれたので一気に建設予定地獲得記念歓迎会を開き火がついたわけサ。

同窓会も釧中の元気な先輩が多すぎて、サアやるぞやるぞと元気は良かったんだが、金集めとなると少しつまずきがあった。

後輩 札幌にいたので札幌南高の記念会館(同窓会館)についてしゃべりたいんですが、平成7年10月21日の創立百周年記念式典には堀達也道知事を始め二千二百八十名余が集まった。その協賛会が

一億六千万円余を集めている。準備会が四年間で一挙にやった。湖陵同窓会館のお金と同じなんです。

先輩 そうだよナ。南高はそのうち八千五百万円の会館だ。短期決戦といえるか。

後輩 南高は一階が史料室と同窓会事務室、二階に研修室です。

先輩 湖陵は当初の青写真では三、四百名収容の講堂、学生の部屋の多目的な部屋、同窓会事務室、シャワー室など建坪二百坪だったそれが新校舎移転で設計変更と大きく変わった。毛綱氏が博物館、東中と作ってきた変わってきた面もありそうだがネ。

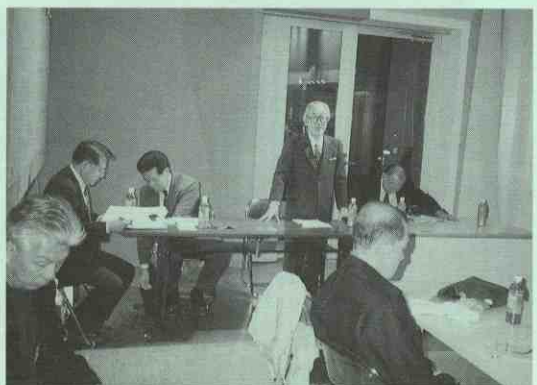
後輩 寄附の集め方も湖陵高は大きく変わりましたネ。札南高は百周年記念事業への高額寄附者や団

### 札南は協賛金1億6千万一挙に うち会館8千5百万円

集計も各期幹事となっている。

が遅れていたのが実際納入は来春以降となった。そこに建築費の高騰で縮小を、更に移転など募金運動が停滞した。道への寄附は一億円が限度になっているから、当初に積立をしておくべきだった。各期まかせて、各人毎の記録も

後輩 事務局が中心ではないんだ。専従の人がいるべきだよネ。一口一百万の寄附でしょ。卒業生が二万八千人以上いるけれど、出せるのは30歳以上の四十期ほど、一



体の十万円以上について、記念館ホール銅版に永くその名を記し、徳を称えている。

先輩 それは他高校も似ている。うちも奉加帳を廻した昭和60年には四千万円にのぼった。一期目標一千万円に七百万円を突破した期さもある。ただ特定寄附金の認可

# 響いた1億5千万円 「役員に迷惑」

期あたり四百人出せば一億六千万円、と聞いてます。札幌の六華同窓会は三万六千人でした。

**先輩** そう。昔のように金持ちは十萬、百万円出せの時代でなくて、今は平等主義の時代だからナ。だが、全く出さない期さえあった。

**後輩** 十萬円以上の氏名を銅版に残す大口寄付と、幅広い万、千円単位の志タイプとすべきだった？

**先輩** 釧中三期の佐々木正雄さんの緑ヶ岡ゴルフ場内に十四万平方坪校地、五万五千の校舎をもつ。恵まれた環境に校舎も会館もある。

る。なんとしても解決しなければ。

同窓生から四千四百万、企業から千六百万の六千万円。九千万円が残っていた。今年の二月末に千五百万払えば残りは全額放棄していただけ。何としても達成し

## 残債に再度の寄付依頼 個人負担に協力しよう

開いて皆が奔走している様子を見て解決はマチガイなし、と思ったヨ。

**後輩** では九千万円の残債になったり、連帯保証人の二人が強制執行される心配はないんですネ。

なければならぬ。再度のお願い

で会長等が大口にも割り振りをしているが「彼らも生活がある。同窓生がもう一度出すべきだ」と発言あり、また、愛情はあるナと感激したが、各期毎に急ぎの会合を

**先輩** 毛綱氏の同期生だと思いが彼の遺族へは半分の四百二十万円だけ支払ってある。あとの支払は？と発言していたが、業者の支払50割なら氏へも、ということだった。最後の寄附の集まり具合が

良いと一番なんだがネ。

この号には間に合わないのので報告できないが、次ぎに会ったとき、良い話ができたらしいネ。  
(奥田達也)



### 同窓会館建設の推移

西暦	年号	推移の事項
1947	昭和22年	釧中湖陵同窓会再建発起人会発足
1959	〳 34	「同窓会館を作ろう会」提唱
1975	〳 50	同窓会館予定地獲得記念会
1980	〳 55	第一回同窓会館建設小委員会発足
1982	〳 57	設計を毛綱に3階300坪1億8千万円
1984	〳 59	緑ヶ岡のゴルフ場へ母校、同地に変更
1990	平成 2	緑ヶ岡の新校舎移転、旧校舎解体
1995	〳 7	設計変更建坪120坪、1億5千万円
1996	〳 8	同窓会館竣工
1997	〳 9	引き渡し
2002	〳 14	1,500万円支払で7,500万円放棄契約
2003	〳 15	終了

### 釧中・湖陵同窓会長(戦後)

前に中川久平、山本平吉(釧中1期)が幹事長として

氏名	期	就任年月	期間	幹事長
丹葉 節郎	釧中 8 期	昭和22年8月	11年	
中川 久平	釧中 1 期	昭和33年8月	6年	岡野政広(釧中26期)
米内富久司	釧中12期	昭和39年8月	4年	
古谷 武一	釧中13期	昭和43年8月	4年	八町良三(釧中32期)
米沢悟空翁	釧中17期	昭和47年8月	2年	
坂下 忠勝	釧中16期	昭和49年8月	2年	
中村 隆	釧中27期	昭和51年8月	5年	名倉混(釧中28期)
組村 真平	湖陵 1 期	昭和56年8月	5年	遠藤隆吉(湖陵4期)
長内 宏	湖陵 2 期	昭和61年8月	5年	
久本 甫	湖陵 7 期	平成 3 年8月	12年	関口政司(湖陵10期)

### 単純比較表(同窓会館)

高校名	建坪面積	着工年月	坪当り	建築費用
湖 陵	120坪	平成 8 年12月	125万円	1 億 5 千万円
札 幌 南	120坪	平成 7 年 6 月	70万円	8 千 5 百万円
苫小牧東	91坪	平成 9 年10月	71万円	6 千 5 百万円

# 同期会便り

釧中30・31期同期会  
会長 松島良治



釧路中学校30・31期全国同期会の入学60周年、卒業55周年記念同期会が平成十四年十月八日、九日川湯温泉御園ホテルで開催した。名古屋、新潟、東京、札幌などからの参加者を含め五十七人が参加。そのうち夫人同伴組が十一組あって和気あいあいの雰囲気の中か旧交を温めあった。

釧中30・31期生は入学が同じ年で戦争中の学制改革のため四年制と五年制に分かれた。従って卒業も一九四六年(30期)一九四七(31期)の両期にまたがっている。学生時代は第二次世界大戦の真っ最中で軍国主義教育一辺倒の時代の学校へ、残った生徒は勤労作業に駆り出された。帯広の飛行場建設、北見津別の松下ベニヤ工場、釧路管内の援農作業などそれぞれ集団生活をし寝食共にした仲間だけに絆は固くその結束力は他の期に勝るとも劣らないと自負してい



る。  
一九四五年の終戦時は我々が最  
高学年であり軍人の学校へ行った  
者と釧中に戻って敗戦の苦しみを  
味わいながらも軍国主義教育から

急に米国占領下の民主主義教育に  
変わったため、なかなか割り切れ  
ず馴染みのないものであった。  
今や全員が齢七十三歳を越えま  
したが、記念同期会では上岡信明

氏の司会で始まり、先ず同期物故者九十三人の冥福を祈って黙祷を捧げた後、会長が「今夜は記念同期会であり大いに語り合い、飲み合い、歌い合って楽しみましょう」と挨拶、その後校歌斉唱して本州ブロック代表尾田清氏の乾杯で祝宴に入る。

思い出話に花を咲かせ久々に会った懐かしさもあって時間のたつのも忘れて約束の時間の二時間はあつという間に過ぎ去り、名残は尽きなかったが終わりに応援歌を歌い札幌地区代表石井忠雅氏の発声で万歳を三唱して一次会はお開きとなる。

二次会は別室で元衆議院議員池端清一氏の乾杯で始まり、夜が更けるまで過去を懐かしみ、カラオケで夫人方も歌いまくりワイワイガヤガヤ・大変盛り上がり実に楽しい一夜を過ごしました。

二日目は、天候に恵まれ硫黄山、摩周湖、弟子屈900草原など見学の後、茅沼温泉憩いの家で昼食会(バーベキュー)。さんま、いか、鮭のチャンチャン焼き、とうきび、じゃがいもなど食べきれないだけの会食に本州地区の諸君はとて喜んで舌鼓を打ち、別れを惜しみつつ解散した。

結びに同窓生の皆様のご健勝とますますのご活躍をお祈り申し上げます。

- |       |      |      |
|-------|------|------|
| 太田敏雄  | 伊藤健雄 | 伊賀昭夫 |
| 山内建雄  | 浅野省三 | 寺田俊秀 |
| 坂野勤   | 小西富雄 | 細川仁  |
| 三原操乙  | 片山金蔵 | 千葉昌一 |
| 岩船康典  | 沢野浩  | 佐藤泰史 |
| 本岡国秀  | 山本信郎 | 足立正  |
| 安徳裕二  | 沈瑞清一 | 原次雄  |
| 高橋方郎  | 鯉谷徳郎 | 佐川栄  |
| 工藤剛一  | 小西利幸 | 尾田清  |
| 岩崎敏雄  | 村田栄  | 辻夫人  |
| 森幸昭   | 白崎貞二 | 葛西夫人 |
| 仲川敬   | 奈良忠  | 岩川英樹 |
| 中村久雄  | 北徳人  | 田中保  |
| 葛西臣敏  | 清水祐三 | 関夫人  |
| 大久保達海 | 鈴木新夫 | 唐川佳也 |
|       | 上岡信明 | 唐川夫人 |
|       | 上岡夫人 |      |



釧中入学60周年・卒業55周年記念同期会 H14.10.8 於 御園ホテル

# 活躍する卒業生



## Guardian of the record (記録の守護者)

布施 久美子

湖陵三四期

(昭和五七年卒業)

“Guardian of the record”  
これは私が所属する全米速記者協会 (National Court Reporters Association) のスローガンです。公正で正確な記録を迅速に残すこと、それが私の職業「裁判所速記官」の国境を超え普遍的な使命であると言えます。

速記官は、裁判での証言等を専用のタイプで逐語的に記録していきます。皆さんもアメリカの裁判ドラマや映画でお見掛けかもしれません。国会は手書き速記ですが、裁判所は戦後に速記が導入されて以来、ずっと機械式です。最初のころは、アルファベットの暗号のような速記符号を、手書きで普通のような日本語に反訳していましたが、やがて反訳機器がワープロになり、今では速記用タイプにパソコンをつないで、リアルタイムで反訳できるまでになりました。このリアルタイム・ソフトは、先輩の速記官が開発し、私たちが実務の中で日々研究を重ねて、現在も改良が

進行中です。今後、聴覚障害者の情報保障やテレビ字幕等、多方面での活躍の可能性を秘めています。法廷の場では、多種多様な言葉が飛び交います。法律の分野以外にも、医学、建築、化学などの専門用語、そして、方言、地名、人名等、あらゆる言葉が録取の対象となります。知らない言葉は聴き取れないので、資料を事前に読み、証言内容などの予想をつけ、頻出する単語は略語化し、パソコンに登録して準備していくのですが、画面にはときどきおかしな誤変換が…。一人でツボにはまってしまい、笑いをこらえることもしばしばです。(大抵は笑えるような場面ではないので。)また、速記する際には発言者の口元を見ますが、早口の人のときには、集中するためにすごい形相でにらみつけていることもあるようです。ときには、質問と答えが重なってしまうことや、細かい声でぼつぼつと語る被告人、感情

が高ぶって泣き出してしまう証人などもあります。それでも何とか速記しなくてはいけないのですが、正直なところ、「泣きたいのはこっちだよ。」という気分です。昨年は勤続二〇年ということ、



## 人生に趣味を持って

森 孝博

湖陵三二期

(昭和五五年卒業)

この就職難の時代に今の高校生は何を目標に勉強しているのだろう。湖陵は進学校であるから、多くの生徒は二年後、四年後にその社会の洗礼を浴びることを気の毒に思うのは私だけだろうか。

湖陵三二期の私の時代は大学卒業が昭和五九年、世の中がこれからバブル絶頂期を迎える少し前の時期で、就職活動はいわゆる売り手市場だったので受ける会社でほとんど全て内定をもらい、当然就職に困ることもない右肩上がりの良き時代であった。その後自己都合で退職し、大阪から地元釧路に戻り失業保険にお世話になったこともあるが、湖陵の先輩が役員を務める会社のアルバイトを経て今の勤務先に就職できたのは昭和六三年、まだバブル経済の時代でした。ところがその後の十五年、

様々な試験に挑戦してみました。一級速記士検定で文部科学大臣賞(最上位でミス〇.〇二%以内)、リアルタイム競技会で優勝という、思いがけなくうれしい賞を頂くことができました。この結

世の中はバブル崩壊からズルズルと不景気に陥り益々混沌の時代を迎えてしまった。自分や家族の将来さえも危うい時代に学生の就職難を心配する余裕すら無くなりつつある。

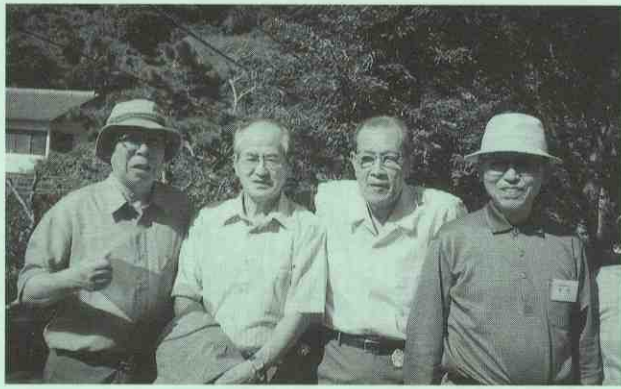
そんな時代ではあるが、私には二八年間続けている趣味がある。中学からずっとトランペットを吹いていて、湖陵時代は器楽部に所属し、今でも釧路吹奏楽団という社会人バンドで活動している。团长は私達夫婦の仲人でもあり湖陵の大先輩・佐藤昌之釧路大名管教授で、仲間には湖陵高校の渋谷先生(先輩)、竹本先生もおられ、他にも釧路市内で活躍されている先輩・後輩OBの方々週に二回楽しくお付き合いさせて頂いている。決して二八年間平凡に吹いてきたのではなく、ある時はコンク

果に甘えることなく、これからの時代の要請に応えられるプロの道を極めるため、更に知識を増やし、技術を磨かなくてはと、決意を新たにしている今日このごろです。

ールの上位入賞を目指し練習に没頭し、ある時は生涯の友ができるまで遊び、そして語らい、またある時は失敗をして心の中で泣き叫び、そして大人になった今ではステージの良し悪しを肴に皆で酒を飲む。趣味の世界でも色々なことが起きるから面白く、また永く続けられる。障害がある度にそれを避けて通ったり、毎日続く基礎的な練習を退屈に思ったり、指導者から怒られることに嫌悪感を示したりしては音楽を奏でるという共同作業的な行為は続かない。仕事を忘れストレスを発散できる趣味があったからこそ、日常をきちんと務めてこられたに違いないというのはい言過ぎだろうか。

今、生涯の目標を目指して一生懸命勉強している現役学生には悪いが、「今からでも遅くはない、勉強や仕事だけじゃ人生つまらないから趣味を持って」と是非先生方から指導してもらいたい。多分、先生方も自分の教科以外に教えたことの方が山ほどあるでしょうから。

# 同期生交友 湖1



上尾幌小からの愛澤喜昭は勤勞奉仕の昭和20年、中学3年で予科練に入隊した熱血漢。小樽商大から拓銀に入社し支店長を経て各社出向、獨協大の事務長や社長も、船橋市在住。

鳥取小から私と同じ早大へ進んだ宮下之良は商業高校の英語教師。

私は日進小から釧中五年間、学制改革で湖陵高3年（正式には釧路高校）に進級した。早大を卒業した昭和28年、故郷へ戻り阿寒バス入社、道東の各営業所を廻り、本社で定年を迎え悠々自適72歳。

釧路市では毎月、全国範囲では二年おきに会合を持ち、六年間を援農など「同じ釜のメシ」を喰った同期生が交友を暖めている。

(湖陵一期 富澤正美)  
(写真右から)

愛澤 喜昭  
徳田 廣  
富澤 正美  
宮下 之良

## 栗村英二元東京支部長逝去

平成四年から東京支部の会長を務めた獨協大名誉教授栗村英二（湖陵一期）が昨十四年九月十九日逝去されました。

お互いに「内容や表現の不足を適切な指摘」と受けとめた。相手が秀才の誉れ高い東栄小からの徳田三兄弟の弟・徳田廣は社会科教師の道を歩む。

## 編集後記

昨年の我が国は、引き続きのデフレ経済や治安低下、既得権益勢力の抵抗、食品への不信など時代閉塞感が高まった中で日本人のノーベル賞二人受賞に日本中が沸いた。ビリケツで東大卒業との小柴昌俊さん、職場仲間の功績を忘れない田中耕一さん二人に共通したユーモアにあふれ学歴肩書きを偉ぶらない謙虚な態度に随分いやされた。

昨秋に母校の九〇周年記念と言う大事な節目をめでたく迎え、本紙第四二号は、写真をふんだんに活用した九〇周年記念特集となった。本日の卒業生はもちろん在校生には稀有な思い出になったのではないだろうか。

前号より奥田達也氏を編集長にすえ、平成六年以来久しぶりに年二回（八月同窓会総会、三月卒業式）の発行予定となった。同時に母校より編集委員として渋谷倫之先生（湖陵二六期）を迎え、母校との絆が更に深まった。会報の充実を一層ご期待あれ。O B諸兄O G諸姉からの投稿（写真・文）を

歓迎します。なお①原稿文中の人名は苗字名前（フリガナ）を明記、②投稿者は卒業年・連絡先を明記し正面を向いた顔写真を添えて下さい、③原稿に加除筆する場合もあります、④都合により次号に載せる場合があります、⑤寄せられた原稿、写真は返却しません。宛て先は別記「くまざさ編集委員会」まで。

(田卷恒利 記)



(写真右より)

渋谷 倫之  
田卷 恒利  
佐藤 文昭  
奥田 達也  
上岡 信明  
石川 和男

## くまざさ編集委員会

〒〇八五-〇〇一四  
釧路市末広町二丁目四番地 栄屋旅館内  
TEL 〇一五四 (二三) 〇二四一番  
手動切替 FAX 〇一五四 (二三) 〇二四二番

## くまざさ編集委員会

同窓会会長 久本 甫 (湖陵七期)  
同窓会幹事長 関 口 政 司 (湖陵一〇期)  
同窓会会計長 佐 藤 文 昭 (湖陵二二期)  
編集委員長 奥 田 達 也 (湖陵一期)  
編集副委員長 石 川 和 男 (湖陵二七期)  
編集委員 渋谷 倫 之 (湖陵二六期)  
編集顧問 上 岡 信 明 (釧中三〇期)  
編集事務局長 田 卷 恒 利 (湖陵一八期)

寄 北海道立釧路湖陵高等学校 創立九十周年記念  
湖陵創立九十年  
攻学名門秀俊研  
校訓専心誠愛勇  
師恩久遠陸天  
作 鈴木伸石  
釧中・湖陵入学七人兄弟の一人  
釧中33期湖陵2期の鈴木英雄さん